

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成18年3月23日(2006.3.23)

【公表番号】特表2004-520084(P2004-520084A)

【公表日】平成16年7月8日(2004.7.8)

【年通号数】公開・登録公報2004-026

【出願番号】特願2001-544615(P2001-544615)

【国際特許分類】

A 6 1 F 5/56 (2006.01)

【FI】

A 6 1 F 5/56

【手続補正書】

【提出日】平成18年1月20日(2006.1.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

中空内部を有する本体を具える舌安定化器具であって、この器具を使用者の舌に嵌合させるとき、前記中空内部に使用者の舌の端部が負圧により密着保持されるようになっており、

前記本体は、器具の中空内部への開口を有する入口部と、圧迫可能に拡張した膨大部であって、この膨大部は可撓性の壁部を有し、これにより前記拡張した膨大部を圧迫することができるようになっており、器具を使用者の舌に対して使用する際に膨大部を釈放すると、器具を使用者の舌に保持する負圧を発生することができるようになっており、膨大部とを具えており、

この器具は、使用者の顔と掛合して、舌を前方に保持して使用者の気道を開放するよう補助していき低減させる部分を有しており、

これら部分は、前記広がった膨大部の外部から器具の長手方向軸線に対してほぼ垂直に突出している第1タブと、この第1タブに対してほぼ反対の方向に突出する第2タブとを有しており、

この器具は、可動性材料から成形された一体ピースの器具であり、

前記タブは、前記膨大部と一体的に成形されており、且つ使用者の上側及び下側の唇の中心領域で使用者の唇に、又は唇と歯との間に接触する位置となるが、口角領域で使用者の唇上に又は唇と歯との間に接触する位置をとらないよう成形されており、

前記入口部が、直径の小さなネック部により前記膨大部に連結しており、この入口部には前記開口から前記ネック部への直径を減らしたテーパが付けられており、

前記開口及び前記入口部は、可撓性で、且つ当該器具全体を通して大きな断面直径を有しており、

この器具の前記中空内部は、前記ネック部においてほぼハート型の断面形状を有することを特徴とする舌安定化器具。

【請求項2】

入口部の下側壁に切り込み部を設けた請求項1に記載の舌安定化器具。

【請求項3】

前記タブの一方又は双方が、前記拡張した膨大部の内部と連通した中空内部を有する請求項1又は2に記載の舌安定化器具。

【請求項 4】

前記タブの一方は、前記タブの他方より前記入口に近い、前記膨大部の外側の点から突出している請求項 1 乃至 3 のいずれか一項に記載の舌安定化器具。

【請求項 5】

前記タブの一方を、前記タブの他方より長くした請求項 4 に記載の舌安定化器具。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

大まかにみると、本発明は、中空内部を有する本体を具える舌安定化器具であって、この器具を使用者の舌に嵌合させるとき、前記中空内部に使用者の舌の端部が負圧により密着保持されるようになっており、前記本体は、器具の中空内部への開口を有する入口部と、圧迫可能に拡張した膨大部であって、この膨大部は可撓性の壁部を有し、これにより前記拡張した膨大部を圧迫することができるようになっており、器具を使用者の舌に対して使用する際に膨大部を釈放すると、器具を使用者の舌に保持する負圧を発生することができるようになっており、膨大部とを具えており、この器具は、使用者の顔と掛合して、舌を前方に保持して使用者の気道を開放するよう補助していびきを低減させる部分を有しており、これら部分は、前記広がった膨大部の外部から器具の長手方向軸線に対してほぼ垂直に突出している第 1 タブと、この第 1 タブに対してほぼ反対の方向に突出する第 2 タブとを有しており、この器具は、可動性材料から成形された一体ピースの器具であり、前記タブは、前記膨大部と一体的に成形されており、且つ使用者の上側及び下側の唇の中心領域で使用者の唇に、又は唇と歯との間に接触する位置となるが、口角領域で使用者の唇上に又は唇と歯との間に接触する位置をとらないよう成形されており、前記入口部が、直径の小さなネック部により前記膨大部に連結しており、この入口部には前記開口から前記ネック部への直径を減らしたテーパが付けられており、前記開口及び前記入口部は、可撓性で、且つ当該器具全体を通して大きな断面直径を有しており、この器具の前記中空内部は、前記ネック部においてほぼハート型の断面形状を有することを特徴とする舌安定化器具である。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

さらに、器具の中空内部は、図 4 に示すようにネック部 4 においてハート型の断面を有する。図 3 に示すように、切り込み 7 を器具に形成し、使用者の舌下膜を収容するようにするのが好ましい。